

令和七年三月二十三日

# 第三十九回

## 田辺春季俳句大会句集

田辺市俳句連盟

田辺市中央公民館



# 公募句【一般の部】入賞者

選者（敬称略）

桐本 美恵子

川口 修

中野 静子

松本 武千代

尾崎 均

樫本 正巳

## 教育委員会賞

小さき手に夢いろいろや雛あられ

上秋津

久保 久美子

## 中央公民館長賞

はばからぬ声を武器とし恋の猫

みなべ町

山内 恵子

声のなきままに母消え春の夢

和歌山市

北野 恵美子

鷹舞ふや空蒼ければ海も又

芳養松原

川口 修

手話の手のしやべりづめなり風五月

みなべ町

武田 恵子

神将の眼光暗き堂に凍つ

高雄

堀 康代

## 連盟賞

浜焚火かの豊漁を饒舌に

あけぼの

藤原 加代子

## 秀逸賞

言ひ負けし老にも気骨松の芯

白浜町

那須 重子

隠国に春どよめきぬお燈祭

新宮市

下川 成輝

選者特選賞

桐本 美恵子 選

言ひ負けし老にも気骨松の芯

白浜町

那須 重子

手話の手のしやべりづめなり風五月

みなべ町

武田 恵子

小さき手に夢いろいろや雛あられ

上秋津

久保 久美子

川口 修 選

装ひし母を目で追ひ入園す

高雄

堀 康代

はばかりぬ声を武器とし恋の猫

みなべ町

山内 恵子

石尊摘む一家総出の十五人

印南町

道 修一

中野 静子 選

熊野みな神の山なり冬の虹

和歌山市

島本 美紀

鷹舞ふや空蒼ければ海も又

芳養松原

川口 修

恙無き卒寿の手足青き踏む

高雄

堀 康代

松本 武千代 選

声のなきままに母消え春の夢

和歌山市

北野 惠美子

隠国に春どよめきぬお燈祭

新宮市

下川 成輝

神将の眼光暗き堂に凍つ

高雄

堀 康代

尾崎 均 選

大漁旗揚ぐ一湾の年用意

あけぼの

藤原 加代子

小さき手に夢いろいろや雛あられ

上秋津

久保 久美子

駆け下りし火群散りぢり寒北斗

あけぼの

山中 晴美

樫本 正巳 選

落椿樹下に正坐のまくれなる

あけぼの

山中 晴美

初猟の小さき命見逃せり

上野

那須 眞千代

文豪に呼ばれ古書店暮の秋

岡山県

岡田 邦男

入選 桐本 美恵子 選

梅真白太古の祭祀跡ひそと	中野 静子	啓蟄や餃子の耳をつまみ出す	武田 恵子
あれこれと進まぬ話まず葛湯	永井 富美子	春耕や大地の息吹日に晒し	北野 恵美子
爺婆はニュースキヤスター日向ぼこ	尾崎 均	晩学の趣味が生き甲斐春うらら	坂井 マチ子
桶の水柄杓銜へて凍りけり	堀 あや子	日向ぼこ羅漢の顔の揃ひけり	西尾 敬一
流木の深き爪痕春怒涛	吾亦紅	ばあちゃんの元気貰ひぬ七草粥	羽賀 明
動く気の更更あらず炬燵部屋	尾崎 均	窮屈になりしと大根土を脱ぐ	山内 恵子
袖風呂にゆつくり憂さを沈めけり	石垣 実男	うぶすなの杜囃すごと木の芽吹く	山本 容子
散歩への一步躊躇ふ余寒かな	小山 裕司	臥す妻に色足袋選りぬ一葉忌	小野 道山
声のなきままに母消え春の夢	北野 恵美子	夕野火の余燼に生れし風の道	那須 重子
春ここに来てゐるやうな浦百戸	池田 昌子	読みほぐす古歌に躓く春炬燵	松本 武千代
つくばひにあふれんばかり春の月	松下 弘	来世まで秘めたる嘘や冬北斗	岡田 邦男
鷹舞ふや空蒼ければ海も又	川口 修	磯の香を四角に均し海苔を漉す	那須 重子
気の付けば置いて帰りし風邪の菌	那須 眞千代	病む友の健気な便り春を待つ	久保 久美子
深熊野の闇をこじあけ初日の出	桑原 康宏	心臓が早鐘を打つ大試験	田中 正博
鹿尾菜刈る濡れて重たき磯草履	堀 康代	神将の眼光暗き堂に凍つ	堀 康代

入選 川口修選

あれこれと進まぬ話まず葛湯	永井 富美子	恋猫の凄まじき声聞走る	腰前 八重子
じつとしておれぬ桃組ひなたぼこ	武田 恵子	たそがれて匂ひ放つや庭の梅	堅田 初子
生きがいと世話せし鶏の寒卵	那須 眞千代	鹿尾菜刈る濡れて重たき磯草履	堀 康代
鴨飛翔光を散らし影ちらし	松本 武千代	灯台守悲話語りつぐ冬董	道 修一
農具市鎌の刃定む表裏	松場 一	やうやくに決まりし産着桃の花	小野 道山
一月をビリリと剥し二月来る	腰前 八重子	早春の水一滴に音生まれ	宮内 信子
袖風呂にゆつくり憂さを沈めけり	石垣 実男	白魚の潮のしたたるお福分け	武田 恵子
遺言の手ほどきを受け桜餅	中村 敏之	晩学の趣味が生き甲斐春うらら	坂井 マチ子
船からも見ゆる高さに凧揚がる	松下 弘	晴耕雨読ラジオは伴侶暖かく	米澤 百
菜園を浮き沈みして蝶の昼	清水 洋子	ままごとの弁当箱に露の臺	池田 昌子
寝ねがての耳奪はるる猫の恋	桐本 美恵子	核なくす署名に外す手套かな	岡田 邦男
浜焚火かの豊漁を饒舌に	藤原 加代子	カレンダーに予定の増へて春隣	橋戸 千代子
数へ日の用なき爺は浜へゆく	前田 三紀	くれなゐの袴山茶花散り敷きて	樫本 正巳
寒燈の上御殿又下御殿	龍田 早苗	下萌ゆる更地に陽射しあふれゐて	山内 恵子
待合の等間隔の黙寒し	米澤 百	山彦を大きく返し山眠る	松下 弘

入選 中野 静子 選

緋寒桜寺の裏木戸開けてをり	池田 昌子	梅固し出店の湯気の千切れつつ	山中 晴美
雲梯の右手左手鳥雲に	岡田 邦男	やうやくに決まりし産着桃の花	小野 道山
はばからぬ声を武器とし恋の猫	山内 恵子	春耕や大地の息吹日に晒し	北野 恵美子
ものの芽に誘ひ水めく雨上がる	山内 恵子	百姓と云ふ女の手春火鉢	宮内 信子
遺言の手ほどきを受け桜餅	中村 敏之	小さき手に夢いろいろや雛あられ	久保 久美子
声のなきままに母消え春の夢	北野 恵美子	今年より夫と作りし雑煮かな	小倉 尚子
船からも見ゆる高さに凧揚がる	松下 弘	涅槃図の裏に回れば猫の声	川口 修
老いし身の四方へ義理欠く寒さかな	堀 康代	初孫を家譜に書き足す大旦	小野 道山
浜焚火かの豊漁を饒舌に	藤原 加代子	木の頑具だけを売る店冬ぬくし	島本 美紀
言ひ負けし老にも気骨松の芯	那須 重子	屋根替の終りし堂のたたずまひ	松本 武千代
老舗書肆閉店通知熊楠忌	三谷 渉	読みほぐす古歌に躓く春炬燵	松本 武千代
膝付くは祈りの形防風掘る	川口 修	露の臺農事暦に包みけり	小野 道山
野梅咲く熊野の山気ほぐれゆき	桐本 美恵子	無防備に腹みせ猫のひなたぼこ	岩本 悦子
金縷梅と山の目覚めを待ちにけり	神田 由香里	病む友の健気な便り春を待つ	久保 久美子
捗どりし整理せいとん日脚伸ぶ	田中 敬子	神将の眼光暗き堂に凍つ	堀 康代

入選 松本 武千代 選

あれこれと進まぬ話まず葛湯	永井 富美子	早春や子ら公園の風となる	山本 容子
桶の水柄杓銜へて凍りけり	堀 あや子	瀬祭のあめつちわけぬ暮らしかな	下川 美紀子
子の声の駆けゆく速さ風光る	山中 晴美	野梅咲く熊野の山気ほぐれゆき	桐本 美恵子
装ひし母を目で追ひ入園す	堀 康代	言葉数増える幼や草萌ゆる	北野 恵美子
はばかりぬ声を武器とし恋の猫	山内 恵子	手話の手のしやべりづめなり風五月	武田 恵子
風紋は神のアートや春隣	川口 修	笙つつむ巫女の指さき風光る	中野 静子
立ち位置のまだ定まらず雪螢	下川 美紀子	物芽出て日々確かなる影を置く	山本 容子
ものの芽に誘ひ水めく雨上がる	山内 恵子	早春の水一滴に音生まれ	宮内 信子
船からも見ゆる高さに凧揚がる	松下 弘	春耕や大地の息吹日に晒し	北野 恵美子
囀や小さき嘴を空に向け	清水 洋子	百姓と云ふ女の手春火鉢	宮内 信子
初春や八十の差のハイタツチ	那須 眞千代	小さき手に夢いろいろや雛あられ	久保 久美子
一輪のあととは続かず梅寒し	腰前 八重子	初孫を家譜に書き足す大旦	小野 道山
冬青空叩けば音のするやうな	榎本 正巳	うぶすなの杜囃すごと木の芽吹く	山本 容子
秋祭剣の舞は異国人	人見 栄	磯の香を四角に均し海苔を漉す	那須 重子
クリスマスオペラの歌手は寺の嫁	羽賀 明	山彦を大きく返し山眠る	松下 弘

入選 尾崎均選

雲割って日差やはらか黄水仙	腰前	八重子	伏す舟に届く潮の香春立ちぬ	武田	恵子
子の声の駆けゆく速さ風光る	山中	晴美	笙つつむ巫女の指さき風光る	中野	静子
虎落笛りゆうりようと星閃閃と	松本	武千代	梅固し出店の湯気の千切れつつ	山中	晴美
仕合せの近づく音色春ピアノ	福角	美恵子	鼻すする漁師くるりと背に焚火	桑原	康宏
残照の影絵の睦ぶ番鴨	榎本	正巳	足神の供物は草鞋山笑ふ	堀	康代
浜焚火かの豊漁を饒舌に	藤原	加代子	晴耕雨読ラジオは伴侶暖かく	米澤	百
ひとつかみの綿雲を置き冬青空	久保	久美子	春愁や詩囊逆さに振りもして	中野	静子
寒紅の濃きほど口の猛猛し	松下	弘	隠国に春どよめきぬお燈祭	下川	成輝
一輪のあとは続かず梅寒し	腰前	八重子	臥す妻に色足袋選りぬ一葉忌	小野	道山
踏青やポニーの尻尾地に触れて	山中	晴美	南端の一望千里芝焼く火	片倉	充子
早春や子ら公園の風となる	山本	容子	挑むかに冬の皇帝ダリアかな	藤原	加代子
老舗書肆閉店通知熊楠忌	三谷	渉	磯の香を四角に均し海苔を漉す	那須	重子
鷹舞ふや空蒼ければ海も又	川口	修	山彦を大きく返し山眠る	松下	弘
佳き句座に弾む声して福寿草	福角	美恵子	心臓が早鐘を打つ大試験	田中	正博
野梅咲く熊野の山気ほぐれゆき	桐本	美恵子			

入選 檉本 正巳 選

蓑虫の仕立ての腕の確かなる	山内 恵子	手話の手のしやべりづめなり風五月	武田 恵子
桶の水柄杓銜へて凍りけり	堀 あや子	狐火や熊野古道を足早に	手拝 なをみ
流木の深き爪痕春怒涛	吾亦紅	伏す舟に届く潮の香春立ちぬ	武田 恵子
風紋は神のアートや春隣	川口 修	笙つつむ巫女の指さき風光る	中野 静子
立ち位置のまだ定まらず雪螢	下川 美紀子	春宵のテレビ電話の子に乳齒	中村 敏之
菜園を浮き沈みして蝶の昼	清水 洋子	物芽出て日々確かなる影を置く	山本 容子
寒肥や実の生る木には鼯肩して	山内 恵子	銀舍利へ落とす黄金寒卵	尾崎 均
浜焚火かの豊漁を饒舌に	藤原 加代子	忘れるは癒す事かも去年今年	久保 久美子
乾坤の神気めぐりて初明り	福角 美恵子	窮屈になりしと大根土を脱ぐ	山内 恵子
鱒東風墨縄弾く宮大工	小野 道山	春風や九十八歳耳飾り	松下 富子
さまざまな骸を抱いて山眠る	岡田 邦男	桜薬降る学校の一つ減り	おくの みや
つくばひにあふれんばかり春の月	松下 弘	読みほぐす古歌に躓く春炬燵	松本 武千代
早春や子ら公園の風となる	山本 容子	星砂を独り軋ませ冬銀河	仲谷 淳
深熊野の闇をこじあけ初日の出	桑原 康宏	ダイケアの玻璃に広がる冬もみぢ	藤原 加代子
鬼やらふ見えざる鬼は宥めつつ	山中 晴美	涅槃絵図声持つものは皆伏して	宮内 信子

# 公募句【小学生・中学生の部】入賞者

※学年は令和六年度のものです。

選者（敬称略）

川口 修

武田 恵子

中野 静子

堀 あや子

宮内 信子

## 連盟賞【小学生の部】

ゆきあそびほつへはあかくそまっている

芳養小一年

鶴谷 稀李

## 努力賞【小学生の部】

少しだけ春のけはいがしてきたよ

芳養小二年

嶋本 彩乃

見つけたよつくしがのびてせいくらべ

芳養小二年

なす かい生

つもるかなゆきがちらちらかぜにまう

芳養小四年

中山 瑛太

ヒガンバナあかいほのおがもえあがる

秋津川小二年

藤井 航平

雪だるま作つてみたらぼくの顔

上山路小五年

古久保 響斗

連盟賞【中学生の部】

冬銀河夜空見上げる塾帰り

新庄中二年

井上 心絆

努力賞【中学生の部】

空見上げもう来てるかな燕たち

新庄中二年

井藤 凜太郎

桜舞うコートの中でうつ私

新庄中二年

澤竹 美風

入選【小学生の部】川口 修 選

はるになりピアノをひくよがんばるぞ	芳養小一年	嶋本 悠乃
ゆきあそびほっぺはあくそまっている	芳養小一年	鶴谷 稀李
ゆきがふるぼくはうれしく外に出る	芳養小一年	出口 大和
学校のしゅう会時間まめをまく	芳養小二年	井戸本 結菜
せつぶんにどうしてまめをまくのだろ	芳養小二年	岡野 有那
おなべはねはくさいきのこかかせない	芳養小二年	柴田 美奈
少しだけ春のけはいがしてきたよ	芳養小二年	嶋本 彩乃
春休みサッカーいっぱいがんばるぞ	芳養小二年	なす いっさ
見つけたよつくしがのびてせいくらべ	芳養小二年	なす かい生
つもるかなゆきがちらちらかぜにまう	芳養小四年	中山 瑛太
節分にしずかに食べるえほうまき	芳養小四年	堀田 隆二
ランドセルあと一年で卒業だ	芳養小五年	井口 心葉
大寒波続く中での温泉だ	芳養小五年	石山 たいし
ついにきた卒業式の季節がね	芳養小六年	小柳 煌河
桜さく中学校が待っている	芳養小六年	室井 万緒

入選【小学生の部】武田 恵子 選

新学期あの子と同じクラスかな	芳養小二年	岩城 佳希
しんがつきワクワクするなクラスがえ	芳養小二年	宮本 実音
なべの中おにくがいっぱいはいってた	芳養小四年	石山 優志
つもるかなゆきがちらちらかぜにまう	芳養小四年	中山 瑛太
立春にすこしはやめのランドセル	芳養小四年	布袋 那智
新学期最高学年頑張るぞ	芳養小五年	田中 梨絵
節分だパパが鬼役ぶちまける	芳養小六年	鈴木 楓花
冬の服来年きれるかしんばいだ	新二小四年	小川 桃花 16
まどの外やつとさきだす梅の花	新二小四年	中嶋 愛海
友だちがたべたおぞうにうちのとちがう	新二小五年	大江 かのん
寝ちやいそうどうにかしてよこの布団	秋津川小三年	玉置 結妃菜
すすりをり屋台ののれんオリオン座	秋津川小五年	北川 連太郎
窓開けて広がる世界雪景色	上山路小五年	中村 美登
雪だるま作ってみたらぼくの顔	上山路小五年	古久保 響斗
減っていく卒業までのこの時間	三里小六年	須川 巧一

入選【小学生の部】 中野 静子 選

入選【小学生の部】 堀 あや子 選

ゆきあそびほっぺはあかくそまっている	芳養小一年	鶴谷 稀李	ゆきあそびほっぺはあかくそまっている	芳養小一年	鶴谷 稀李
少しだけ春のけはいがしてきたよ	芳養小二年	嶋本 彩乃	さむい夜大きなおふる気もちいな	芳養小二年	大竹 望友
見つけたよつくしがのびてせいくらべ	芳養小二年	なす かい生	見つけたよつくしがのびてせいくらべ	芳養小二年	なす かい生
風船をサンドバッグにしてみたよ	芳養小二年	横矢 桐一	そつぎよう式なみだがでるよさみしいな	芳養小三年	中本 景
さくらさくえがおまんかいうれしいな	芳養小四年	中井 結	つもるかなゆきがちらちらかせにまう	芳養小四年	中山 瑛太
大寒波続く中での温泉だ	芳養小五年	石山 たいし	立春にすこしはやめのランドセル	芳養小四年	布袋 那智
つくし咲くあたたかくなる合図だな	芳養小五年	田中 美結	桜咲く一年生にようこそと	芳養小五年	児玉 諒斗
春になり姉弟そろって登校だ	芳養小五年	友山 凜香	春になり姉弟そろって登校だ	芳養小五年	友山 凜香
ランドセル背負える時間もう少し	芳養小六年	大川 洸聖	桜もちピンクと緑あざやかだ	芳養小六年	小山 杏里
きれいだな香りただよう梅の花	芳養小六年	清水 蒼斗	冬の服来年きれるかしんぱいだ	新二小四年	小川 桃花
卒業だ桜の花が咲きほこる	芳養小六年	布袋 綾人	ねこじやらしフワフワしててきもちいな	秋津川小一年	道上 誠
まどの外やつとさきだす梅の花	新二小四年	中嶋 愛海	ハロウィーンへんしんしたよおぼけだぞ	秋津川小一年	森脇 映
ヒガンバナあかいほのおがもえあがる	秋津川小二年	藤井 航平	ヒガンバナあかいほのおがもえあがる	秋津川小二年	藤井 航平
雪だるま作ったけれどこわれたよ	上山路小二年	ちば ひなた	カマクラを学校みんなで作ったよ	上山路小四年	山下 颯馬
雪だるま作ってみたらぼくの顔	上山路小五年	古久保 響斗	雪だるま作ってみたらぼくの顔	上山路小五年	古久保 響斗

# 入選【小学生の部】宮内 信子 選

うめの花きょうも一日さいている	田一小一年	小山 凜太郎
ゆきあそびほつぺはあくそまっている	芳養小一年	鶴谷 稀李
ゆきがふるぼくはうれしく外に出る	芳養小一年	出口 大和
少しだけ春のけはいがしてきたよ	芳養小二年	嶋本 彩乃
クリスマスツリーの下にプレゼント	芳養小三年	東 航大
春になり動物たちがうごきだす	芳養小四年	内山 美乃
梅の花ミツバチたちはいそがしい	芳養小四年	神向 蒼汰
桜咲く一年生にようこそと	芳養小五年	児玉 諒斗
桜もちピンクと緑あざやかだ	芳養小六年	小山 杏里
桜さく中学校が待っている	芳養小六年	室井 万緒
ねこじゃらしフワフワしててきもちいな	秋津川小一年	道上 誠
おいもほりたいへんだけどのしいな	秋津川小二年	今井 乃愛
ヒガンバナあかいほのおがもえあがる	秋津川小二年	藤井 航平
桜さき一つ学年が上がるとき	三里小五年	泉 真ノ介
通学路梅のお花が咲きました	三里小六年	鈴木 那葉

入選【中学生の部】川口 修 選

入選【中学生の部】武田 恵子 選

初雪や葉のない枝に積もりいく

近野中一年

正田 春樹

何が来た足あととどる雪の朝

近野中一年

打越 悠亜

初日の出窓からながめあかね色

新庄中一年

樫山 心奈

いつもよりニヤニヤとまらんお年玉

新庄中一年

上仲 琉偉

雪合戦兄の逆襲駐車場

新庄中一年

武田 結愛

去年より一万足りないお年玉

新庄中一年

岡田 和心

冬休みもうすぐ終わり勉強だ

新庄中一年

谷地 陸

雪合戦兄の逆襲駐車場

新庄中一年

武田 結愛

クリスマス英検対策夜の塾

新庄中一年

津守 渚翔

クリスマス英検対策夜の塾

新庄中一年

津守 渚翔

空見上げもう来てるかな燕たち

新庄中二年

井藤 凜太郎

冬銀河夜空見上げる塾帰り

新庄中二年

井上 心絆

初日出心にちかうあの思い

新庄中二年

上舎 芽愛

桜舞うコートの中でうつ私

新庄中二年

澤竹 美風

みんな撮れ雪を。パクパクうちの犬

新庄中二年

西谷 風和里

玉雪や走る私の背中おせ

新庄中二年

鷹巢 日菜子

入選【中学生の部】中野 静子 選

初雪や葉のない枝に積もりいく

近野中一年 正田 春樹

初日の出窓からながめあかね色

新庄中一年 樫山 心奈

冬の朝ねむい目こすりクロワッサン

新庄中一年 瀧本 結心

元日にいとこみんなでかくれんぼ

新庄中一年 向井 愛莉

冬銀河夜空見上げる塾帰り

新庄中二年 井上 心絆

微妙だな小吉でたよ初詣

新庄中二年 苫谷 鍊

風が吹き花びら舞って寒桜

新庄中二年 水谷 友香

咲いて散り出会いと別れの桜だな

秋津川中二年 上仲 心々南

入選【中学生の部】堀 あや子 選

早起きしオレンジ色の初日の出

新庄中一年 山本 蒼波

空見上げもう来てるかな燕たち

新庄中二年 井藤 凜太郎

冬銀河夜空見上げる塾帰り

新庄中二年 井上 心絆

桜舞うコートの中でうつ私

新庄中二年 澤竹 美風

微妙だな小吉でたよ初詣

新庄中二年 苫谷 鍊

みんな撮れ雪をパクパクうちの犬

新庄中二年 西谷 風和里

ろてんぶろつめたいかぜをあびながら

新庄中二年 山根 庵慈

カリカリとあられが美味しいひな祭り

秋津川中一年 南 凜

入選【中学生の部】宮内 信子 選

空見上げもう来てるかな燕たち

新庄中二年

井藤 凜太郎

冬銀河夜空見上げる塾帰り

新庄中二年

井上 心絆

久しぶり家族団らん大晦日

新庄中二年

榎本 桜

初日出心にちかうあの思い

新庄中二年

上舎 芽愛

桜舞うコートの中でうつ私

新庄中二年

澤竹 美風

ろてんぶろつめたいかぜをあびながら

新庄中二年

山根 庵慈

咲いて散り出会いと別れの桜だな

秋津川中二年

上仲 心々南

桜咲く新たな出会いに胸弾む

秋津川中二年

堀越 丈陽

# 田辺市俳句連盟規約

- 一 この連盟の事務局は、田辺市中央公民館に置くものとする。
- 二 本連盟は、会員相互の親睦と研修をはかり、市民の俳句的関心を高め、地方文化の向上に寄与することを目的とする。
- 三 前記の目的を達成するため、市民俳句大会を開催するほか、諸種の事業を行う。
- 四 連盟には次の役員を置き、その任期は二カ年とする。

会長	一名	副会長	二名	幹事長	一名
幹事	若干名	顧問	若干名		
- 五 規約に定めない事項については、役員会の協議によって決める。

# 田辺市俳句連盟 役員名簿

会長

桐本 美恵子

副会長

武田 恵子

幹事長

松場 一  
川口 修

幹事

中野 静子

松本 武千代

尾崎 均

樫本 正巳

堀 綾子

宮内 信子

米澤 百子

真砂 充敏

野田 泰輔

寺本 香花

大木 優実

顧問 田辺市長

田辺市教育長

事務局

第三十九回 田辺春季俳句大会句集

編集発行 田辺市俳句連盟

田辺市中央公民館

〒六四六―八五四五

和歌山県田辺市東山一丁目五番一号

田辺市教育委員会生涯学習課内

☎ ○七三九―二六―四九〇八